

気候変動運動の根幹にある誤った科学と誤った政策が30年以上も放置されてきた

杉山 大志 (すぎやま たいし) 一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹

ロジャー・ピールキー・ジュニア

The Honest Broker

2025.7.29

監訳 キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹 杉山大志 訳 木村史子

本稿はロジャー・ピールキー・ジュニア

The Bad Science and Bad Policy at the Heart of the Climate Movement: Sitting in plain sight for more than 30 years

<https://rogerpielkejr.substack.com/p/the-bad-science-and-bad-policy-at>

を許可を得て邦訳したものである。



気候政策は実に簡単だ！

「気候変動」という言葉が、科学と政策において全く異なる意味を持つという事実に気づいている人はほとんどいない。この差異は気候政策の根本的な矛盾を露呈させており、地球温暖化の原因が温室効果ガス排出だけではないということが最近になって再認識されたことで一層浮き彫りになった。

驚くべきことに、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）と国連気候変動枠組条約（UN-FCCC、1992年）は、「気候変動」について異なる定義をしてきた。

IPCCは気候変動を次のように定義している。

「気候の状態の変化であり、その特性の平均値および／または変動性の変化によって（例えば統計的仮説検定